

令和5年度 第2回 釜石市男女共同参画推進協議会開催結果

1. 日 時 令和6年2月13日（火）13:55～15:15
2. 場 所 第4庁舎3階 第7会議室
3. 出席者等 <出席委員8人>
赤崎幸子委員、市川淳子委員、浦嶋博幸委員、千葉悟委員、万城目千佳代委員、
八幡亘委員、山崎詔子委員、山本理悦子委員
<市側出席者>
小野共市長
総務企画部長 中村 達也
総合政策課男女共同参画室室長 菊地 美幸
総合政策課男女共同参画室室長補佐 正木 佳恵
総合政策課男女共同参画室主任 猪又 孔太
4. 経過・結果 別紙次第のとおり、市長挨拶後、下記の議事について質疑応答、意見交換を行った。議事内容については概ね了承され、当日委員からいただいた意見については、事務局において協議、修正することで一任された。また、パブリックコメントで寄せられた意見の取り扱いについては、万城目会長と調整を行い、最終の計画案としてまとめることので了承された。

【主な発言は以下のとおり】

(1) かまいし男女共同参画推進プラン2024-2028（案）の策定について

（資料2施策の体系、資料3かまいし男女共同参画推進プラン2019、次期計画の指標について（資料No.なし））

- 【山本委員】資料2の3ページ、生涯を通じた心と体の健康支援の性感染症予防対策事業について。昨年辺りまでエイズ感染が増えていると言われていたが、昨今マスコミでは梅毒が増えていると報道している。若い人達に多いことだと思うが決して「都会のこと」ではなく、流行はすぐ釜石にもくる。このことについて、もう少し高校生や中学生に知識を深めてもらい、感染した場合の大変さを認知してほしいと思う。
- 【事務局】中学校では市内5校において輪番制で年に2度思春期講演会を開催し、3年間在籍しているうちに1回は講演を聴講する機会を設けている。現在、高校生を対象とした事業は実施していないので、検討していきたい。
- 【山本委員】街中を歩いていると「どうしてそんな場所から」というような場所から制服姿の若いカップルが出てくる時がある。そういった子供達にも性感染症について内容を知ってもらいたい。
- 【万城目会長】中学生で講座を受けていると思うが、高校生でも改めてそういった内容の講座が受けられる機会を設けるように、市としても努力目標として取り組んでいただきたい。
「高校生だから分かっているでしょ」ではなく、高校生になって改めて聞くことで、大学生や社会人になった時に活かしていければいい。そういった社会づくりを進めて

いければと思う。

- 【市川委員】新しい指標でNo.5の釜石市役所における男性の育児休暇取得率について、令和10年度まで100%を目標に取り組むことはすごく賛成で素晴らしいこと。今まで、釜石だけじゃなくて全国的に男性の育児休暇の制度はあっても、実際にはその職場で取りにくい雰囲気があった。取りたくても取れない歯がゆさもあり数字が上がらなかったこともあるので目標が100%というのは頼もしいと感じる。
- 【事務局】最近少人数ではあるが庁内において育児休暇を取得する職員が出てきた。今年度は短期間ではあるが二人の職員が取得している。女性が最初に育児休暇を取得するときもそうだったが、最初はどうしてもハードルが高く感じるの、一人二人と少しずつ人数が増えれば、段々と当たり前になってくるところを期待している。市役所内部の取組ではあるが、まずは庁内からといったところで今回指標にしたところ。
- 【千葉委員】育児休暇はどのくらいの期間を取得しているか。
- 【事務局】最近取得とした職員のうち1名は2か月弱取得したと聞いている。もう1名は2回に分けて数日ずつ取得している。
- 【千葉委員】自分の勤務先では昨年度、育児休暇を2か月取得した男性スタッフがいる。その際に、職場内で出た話だが、年休同様に利用できる制度のほうが使いやすいという話になった。勿論、子育ては男性も女性も一緒に行うが、実際はやはり主たるところで言うと、海外のデータを見てもどうしても母性というか、色々な場面を見てもどうしてもお母さんのほうが関わる機会が多い。じゃあ「お父さんは何するの」となった時にもちろんメインになってもいいのだが、奥さんが美容院に行ったり、リフレッシュする時に子供の面倒を見たりとか、母親が普段から根を詰めないように。1か月2か月休むということではなく、今日休みたいという時に年休ではなく育児休暇として取得できるようになれば利用しやすいと思う。実際制度上、数週間前までに事業主に申請手続きしなくてはならないが、今、というタイミングで利用することができればと思う。その上で年間通して40日あります、のほうがすごく利用しやすいと思う。今の制度は少し使づらいものではあると思う。その辺りを釜石バージョンというか、何か対応できるようにであれば。
- 【事務局】育児休暇は無給の扱いとなっている。そういった理由もあり取得が進んでいない現状もある。
- 【赤崎委員】新しい指標の説明で、検診の受診者の割合の指標について担当課から意見があったとのことだが、もともと釜石市はガン検診の受診率はあまり良くないようだと記憶している。自分自身も感じているが安心して健康で暮らすためには、やはり検診というものは非常に有効。様々な理由で指標の算出が難しく指標としては相応しくないということだが、何かしら工夫して正確な受診率を算出できるようにしていただきたい。検診の受診率の指標は非常に重要なところでないかと思う。
- 【事務局】受診率の指標については算定方法をもう一度担当課に確認し、改めて協議する。
- 【市川委員】資料2に掲載している新規事業の母子支援に関する内容について。今年度の4月から新たに子ども家庭センターが各市町村に設置されることにより、これまでの児童福祉と母子保健事業が一体化するといった取組になると思うが、子ども家庭センターが設置されれば色々な面で市民が住みやすいような働きかけが進んでくるのではということで、指標の数字以外のことではあるが期待している。朱書き部分で新規の重層的支

援体制整備事業は具体的にどういった内容か。

【事務局】事業担当課は地域福祉課、地域包括ケア推進本部である。内容とすれば、福祉部門において縦割りとなっていた支援体制について、一連の流れで支援体制を作っていくもの。事業について注書きが必要だったと思うので修正する。

(資料1かまいし男女共同参画推進プラン2024-2028 (案) について)

【八幡委員】意見ではなく感想になるが、仕事柄、母子世帯から相談を受けることがある。先日DVで一時避難しなくてはならない方からの相談があり、行政の方と一緒に協力しながら対応したが困ったのが一時避難場所について。釜石市にそういった避難場所がないので、取り急ぎ一般のホテルに宿泊したのだが、最終的に3週間後には復興住宅に入居できるということだった。資料1に掲載しているDV被害者の保護については、色々な条件が合わないと対応が進まないケースもあるが、今後またそういった相談が私達に来た時に少しでもこの計画に沿って今よりは良くなっている体制を望みたい。我々としてもこういった支援について助言ができるようになればいいと思っている。

【事務局】以前は、ある団体のシェルターがあったということをお聞きしている。一時保護的な場所を用意して下さっており、実際今はそういった施設はない。婦人相談員が配置されている担当課は子ども課となっており、今回の計画の内容についても共有している。今頂いた意見や感想についても担当課にも共有したい。

【市川委員】震災後は仮設も多く、地域の中ではDVもあった。一時避難シェルターがあまりにも公に知られてしまうと避難場所にならなくなるということで、内々に情報共有・連携が必要だった。本当に直接関わるの方がその方の安全を守ることになる。

【万城目会長】相談窓口がはっきり分かるような取組を今後も続けていただきたい。最終的な段階としてはシェルターがあれば良いと思う。

(資料4パートナーシップ制度について)

【万城目会長】性的マイノリティ等には関係なく、男性女性の関係で籍を入れていない方達の場合でもパートナーシップ制度として認める場合もあるそうだが、その辺りは釜石市ではどのように考えているか。

【山本委員】パートナーシップやファミリーシップについて、私の年齢よりも上の人達で「そういったものはいらぬ」というような高齢者に話を解くときは、病院での病状説明の例など、具体的な話を絡めることも必要と思う。

【万城目会長】みんなが理解できる内容で説明する必要がある。実際、長年一緒に暮らしていた人が入院した時に、籍を入れていないことで何もできないという話をよく聞く。

【山本委員】年配の方が理解に至らないことが多いと感じている。先日のセミナーの時にも反対意見があったと聞いている。

【事務局】自治体によっては事実婚も対象としているところもある。内容等の検討まで至っていないが、今回プランにもパートナーシップ制度導入の検討といったことを取り入れている。最近では県内で制度利用する上での自治体間連携の話も出ており、実際制度を利用している方が釜石市に転入してきた場合、釜石市では利用できないといったことにならないよう、間口を広げる意味でも制度を導入する必要があると考えている。

【市川委員】プランについての調整は今回で終了ということか。

【事務局】本日頂いた意見を事務局で調整したうえで2月19日からパブリックコメントを実施し市民の皆さんから意見募集する期間を1か月設けることにしている。パブリックコメントの期間終了後に最終的な調整を行い、3月の下旬には正式に策定といった流れを予定している。

【市川委員】釜石の男女共同参画プランを初めて策定した時に委員を引き受けていた。その時に表紙のカットイメージをどうするか、ということを実際の委員と協議した覚えがある。やっぱり文字よりも絵に目線がいきやすい。絵でも何を訴えるのか、分かりやすいもので男女共同参画を推進する、という点でもそのテーマを表現できるようなカットイラストをいくつかピックアップして利用するのもいいと思う。

【事務局】検討して取り入れたい。

(2) その他

【事務局】先ほど説明した内容と重複するが、本日いただいた意見を整理させていただいて、2月19日から1か月パブリックコメントを実施する予定としている。パブコメの内容は会長と調整して最終的な案としたい。協議会から市長への答申は3月25日月曜日の11時から市長室で行う予定としているので、出席できる委員の方は是非出席していただきたい。

【事務局】8月の第1回目協議会の開催以降、今年度はこの計画を策定しなくてはならないという非常に大事な年度であった。何とかこのような形にまとめ、本日も様々な意見を頂いた。本日の意見としては、全体は良いが例えば高校生の教育も大事ということで、高校生が対象だとどうしても県というイメージがあり、どうしてもそこが世代の中では疎かになりつつ部分ではあるが、その辺りも事業の中でクリアできればと思っている。また育休の指標の関係では令和10年度には市役所の男性職員の育児休暇取得率100%達成することを目標に掲げている。そこでそもそもの育休制度の取り扱いというか、もっと取得しやすいような制度にしたかどうかという意見は非常にそのとおりのと思う。今後どういった制度を取り入れるかということを検討していかなくてはならないと思っている。これはプランに入らなくても随時見直していくことはできると思うので、もしかしてその辺りも人口減対策として住みやすいまちの一つとなっていくのかもしれないと感じている。また、がん検診の指標をワクチン接種率の指標に変更することについて保健福祉部サイドで意見が出ているという話に対して、いや、がん検診も必要な指標ではないかという意見もあったので、その実数の把握の仕方などを再度保健福祉部とも協議し、併せてワクチン接種率についても入っていけば二重に良いのかと感じていたところ。あとプランだけとは限らないが、よく自分達は分かっているけど、住民の皆さんに分かりづらい言葉であったり、今回で言えば重層的支援体制整備事業とか、簡単に言えばどういうものか内容に一行でも記載していれば、より伝わりやすくなると思っていた。あとは社会問題であるDV被害者への支援ということも避難場所等も含めてどういう対応をしていったらいいのか、やはり検討しなくてはならないことだと感じている。最後にパートナーシップ制度ということで、今回皆さんには情報提供といったことで、また今回のプランの中にも釜石市も検討していくということで、若干遅れ気味ではあるが、事務局のほうからもあったとおり行政間の連携も必要になってくるので、こちらについてはプランができて初年度にでもすぐ解決できる

ように進めていかななくてはならないと感じている。そして最後にもっとビジュアル的に見やすくしたほうが良いという意見についてもそのとおりなので、その辺りは工夫して検討を進めていきたい。本日の説明でもあったが、5年前の指標を見てもなかなか進んでいない現状がある。社会のあり様を示すものなので、なかなかすぐには進まないものかなど。根強く根気よく進めていかないとないということだと思う。今回の新しいプランも前回同様今のプランを継続するような形ではあるが、新しいものも継続するものもすべて含めて皆さんのご協力を得ながら共同参画を進めていきたいと思うので今後ともよろしくお願ひしたい。

以上